船の科学館
海の学び
ミュージアム
サポート
Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

# 世界淡水魚園水族館　アクア・トトぎふ
# 「カニカーニバル～海のカニ、川のカニ、陸のカニ～」

開催期間：2026年4月18日（土）～2026年7月12日（日）












## 【企画展の内容・目的】

■海のない岐阜県に位置する当館において、来館者が「海に親しむ」ためのきっかけのひとつとして、「カニ」をテーマとした企画展を行う。海と川はつながっており、特にカニ類については生活史の中で両方の環境を利用している種も多くいることから、自然環境のつながりや多様性について学んでもらうきっかけとしたい。

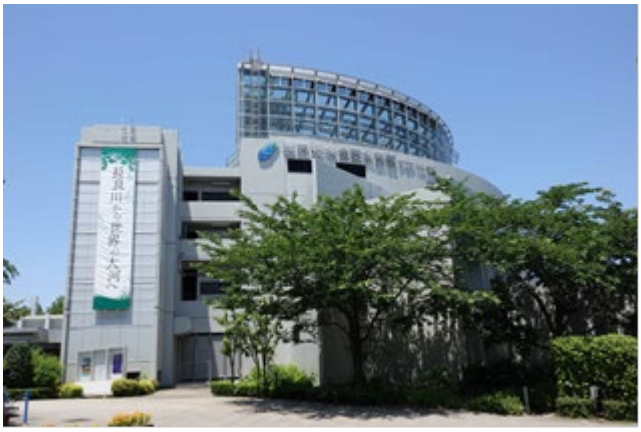
■関連事業として館内レストランで企画展コラボメニュー提供を行う。カニは水産資源としても重要であり、海の恵みを体感する食育活動として、効果があると考えられる。展示解説においてカニの資源量の現状についても触れることから、改めて持続可能な活用方法について考えるきっかけとなることが期待される。

# 1．企画展示の内容

■開催期間：2026 年 4 月 18 日（土）～2026 年 7 月 12 日（日）

■開催場所：世界淡水魚園水族館　特別企画展示スペース

■入場者数：123747 人



世界淡水魚園水族館　外観




企画展会場　入口




タカアシガニ 展示水槽




カニってどんな生き物？

企画展の導入部では世界最大種であるタカアシガニを展示した。大型の水槽で深海を模した照明で演出を行い、来館者の興味を引き立てる展示とすることができた。期間中、来館者がタカアシガニと一緒に記念撮影をしている姿もよく見られた。また、展示個体はメスであり、企画展を開催して間もなく産卵が確認されたことから、大きな足を器用に使って腹部についた卵の世話をする姿を間近に観察することができた。

最初のブースでは「カニってどんな生き物？」というテーマで、カニの形態や分類、繁殖生態などについて、イラストや標本を交えてわかりやすく展示を行った。カニの仲間は世界に約 7000 種もいるといわれており、その中でも世界最重量種であるタスマニアキングクラブの標本を展示し、特に海に多様な種が生息していることを解説した。また、繁殖生態については映像や画像を多用して紹介した。生活史のなかでプランクトン生活を行うことをわかりやすく解説することで、地球温暖化に伴う栄養塩の移動や海流の変化などによる影響についても想像することができる展示とした。




海がはぐくむカニカニカニ！




カラッパ類 展示水槽

続いて「海がはぐくむカニカニカニ！」ブースでは、海に生息する９種のカニを展示した。展示種は生態や行動が特徴的な種を中心に選定し、その特徴を一目でわかるような展示製作を行った。例えば、貝殻やカイメンを背負って身を守るカイカムリの展示水槽には、貝殻とカイメンを入れておくことで、実際に背負って身を隠す姿を観察することができた。また、カラッパ類の水槽は上下２段となっており、それぞれの水槽の水位が交互に上下する仕組みとした。砂に潜ることの多いカラッパは、効率よく呼吸するために、鰓を通した水を勢いよく上部に噴き上げる行動が知られている。水位が下がった水槽の個体が、噴水のように呼吸している姿を観察することができた。水位変動は数分ごとのため、来館者は水位が下がるのを待つ間に解説などに目を通されたり、個体をじっくり観察されており、展示効果が高い水槽であった。




陸と川のカニカニカニ！



ヤマトオサガニ

「陸と川のカニカニカニ！」ブースでは、河川や河口に生息するカニ類を５~６種展示した。生活史の中で森林・河川・海の複数の環境を利用する種の展示を行い、海と川のつながりについて学ぶことができる展示を行った。ミナミオカガニは陸生種として日本最大であり、迫力のある姿に写真撮影される来館者が多くみられた。アカガニの映像展示では、森林から海まで繁殖のために移動する映像を展示した。非常に多くの個体が海を目指して一気に移動する映像には、多くの来館者が足を止めて観覧されていた。




カニカニクイズ




ハサミ足のギミック

「カニカニクイズ」ブースでは、カニに見えないような特徴的な姿をしている種や、カニにそっくり、または和名にカニとつく生物などを、生体および写真展示した。それぞれの水槽や写真の下には、カニのハサミ足の稼働模型を取り付けており、カニではない種のボタンを押すと、ハサミが警告音とともに勢いよく閉じるギミックを取り付けた。幼児や小学生はもちろんのこと、大人の方も非常に多くの方が楽しんでクイズに挑戦されており、大人気の展示であった。あまりにも参加する人が多いため、ギミックが期間中に何度も破損し、そのたびに修理が必要となったため、より耐久性が高いものを製作する必要があったことは反省点である。




サワガニの不思議、カニの保全



鹿児島県産サワガニ

「サワガニの不思議」ブースでは、身近なカニとして知名度の高いサワガニは古くから地域的な体色変異があることが知られていることから、日本各地の様々な体色のサワガニを展示した。また、これらの体色は必ずしも集団の遺伝構造と一致していないことや、内陸に生息する本種の種形成には海が大きく関わっている可能性についても、最新の研究結果とともにわかりやすく解説した。

「カニの保全」ブースでは、ズワイガニ漁における資源を守る取り組みなどについて紹介した。重要な水産資源であるカニ類の持続可能な利用方法について来館者の方に考えてもらうきっかけとなる展示とした。

## 【来館者の声】

◯海はちゃんと大切にしていかないと、と思いました。

◯海の生物多様性について、あらためて実感できました。

◯深海には私たちの知らない生き物が沢山いるんだと思いました。

◯ロードキルに対する取り組みを紹介している点が良かった。

## 2. 関連事業の内容

### ■カニにちなんだスペシャルコラボメニュー

【開催日時】2026 年 4 月 18 日（土） ～ 2026 年 7 月 12 日（日）
【開催場所】水族館併設レストラン「アロワナガーデン」
【参加者数】681 人
【実施内容・目的】
●カニの食利用をテーマに「アロワナガーデン」を運営する株式会社 GENGE と共同でメニュー開発を行った。カニは水産資源としても重要であり、海の恵みを体感する食育活動として効果があると考え、実際に食べた種と、その種の生息環境について知ってもらうことを目標とした。



ソフトシェルクラブのから揚げ



注文された来館者

コラボメニューとして、知名度がありながら少し珍しいともいえる「ソフトシェルクラブのから揚げ」を併設レストラン「アロワナガーデン」で提供した。ソフトシェルクラブはノコギリガザミの脱皮直後の個体で、実際に企画展内で生体展示していることから、見て学ぶだけではなく、実際に食利用することで、来館者の方に海の恵みをより強く体感していただいた。注文された方には本種の生態についてのミニ解説が書かれたガイドペーパーも配布して、本種や本種を育む海やマングローブ域の環境についても知っていただくことができた。

### 【来館者の声】

◯おいしい食べ物を今後も食べるために、環境を維持する大切さを学んだ。

◯少しでも学びを広げるきっかけになるかと。生き物についてなんでも楽しんで学べるといいですね。

## 【事業全体のまとめ】

当館は海無し県である岐阜県に立地するため、海水を取水し飼育展示に使用することができないが、本サポート事業によって購入した人工海水を活用して、様々な環境に生息する海産のカニを数多く展示することができた。また、特に深海に生息するカニ類については低水温を維持することが必要であるが、こちらも本サポート事業によって購入した水槽用クーラーにより飼育展示することができた。カニの仲間は約 7000 種いるとも言われており、展示できた種はその中のほんの一部に過ぎないものの、「海の生物が多様であることをあらためて実感した」という来館者の声もあったことから、多くの方々に海の生きものへの関心を高めることができたと思われる。

また、海と川、陸との繋がりの重要性についても、生活史の中で海・川・陸といった複数の環境を利用する種を紹介したことや、陸生種であるものの種分化に海が関わっている可能性が示唆されていることなどを紹介したことにより、多くの来館者に認識してもらえることができたと考えている。

## 3．主な連携・協力先について

| 連携・協力先名称 | 連携・協力の内容 |
|---|---|
| 1．新江ノ島水族館 | 展示資料（生体、画像等）の借用、飼育方法助言 |
| 2．相模川ふれあい科学館 | 展示資料（生体）の譲渡 |
| 3．すさみ町立エビとカニの水族館 | 展示資料（生体）の借用、生体採集協力 |
| 4．天草パールガーデン&海中水族館シードーナツ | 展示資料（生体）の譲渡 |
| 5．高知県立足摺海洋館 | 展示資料（生体）の譲渡 |
| 6．名古屋港水族館 | 展示資料（標本）の借用 |
| 7．横浜・八景島シーパラダイス | 展示資料（標本）の借用 |
| 8．浜名湖体験学習施設ウォット | 展示資料（生体）の譲渡 |
| 9．内閣府沖縄総合事務局 北部国道事務所 | 展示資料（画像、資料）の借用 |

## 4．主な広報結果について

| 掲載媒体名 | 見出し、掲載日 |
|---|---|
| 1．CBC テレビ | 「デララバ！」（2026 年 4 月 29 日、テレビ） |
| 2．名古屋テレビ | 「ドデスカ！」（2026 年 4 月 30 日、テレビ） |
| 3．中京テレビ | 「キャッチ！」（2026 年 5 月 4 日、テレビ） |
| 4．岐阜放送 | 「ヒダミノ」（2026 年 5 月 19 日、テレビ） |
| 5．中日新聞 | 「情報宅配便」（2026 年 5 月 12 日、新聞） |

以上